

令和6年度計画変更

県 営 土 地 改 良 事 業 計 画 書
(農用地保全)

都道府県名 福 岡

地 区 名 新星野2期地区

所 在 地 八女市星野村

事業主体 福 岡 県

目

第1章	目 的	1
第2章	地域及び地積	1
第1節	地 域	1
第2節	地 積	1
第3章	現 況	2
第1節	気象及び海象	2
1.	一般気象	2
2.	特殊気象	3
3.	海 象	3
第2節	土地状況	4
1.	地形、土壌及び浸食の程度	4
2.	土地分類	5
3.	土地利用の状況	6
4.	土地所有の状況	7
第3節	水利状況	7
1.	用水状況	—
2.	排水状況	—
3.	河川状況	—
第4節	道路概況	7
1.	道路概況	—
2.	主要道路一覧表	—
第5節	地域農業の概況	8
1.	産業別就業人口	8
2.	経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼別農家数	9
3.	動力農機具及び主要家畜頭数	10
4.	主要作物作付状況	11
5.	農業の動向	12
第6節	地域環境の概況	13

次

第4章	一般計画	14
第1節	事業計画の要旨	14
1.	要 旨	14
2.	事業別面積	14
第2節	営農計画及び土地利用計画	15
1.	営農計画の概要	15
2.	土地利用区分	15
3.	作付方式	16
4.	生産計画	17
5.	労働改善計画	—
6.	級地別土地利用区分	—
7.	土地配分計画	—
第3節	用水計画	18
1.	計画基準年	—
2.	計画かんがい方式	—
3.	計画用水系統	—
4.	計画用水量	—
5.	水源計画	—
第4節	排水計画	18
1.	計画基準雨量	—
2.	計画排水方式	—
3.	計画排水系統	—
4.	計画排水量	—
5.	排水対策	—
6.	湛水検討	—
第5節	道路計画	18
1.	道路及び索道	—
2.	路線配置図	—

目

第6節	農用地造成計画	18
1.	農用地造成計画	—
2.	土壌改良	—
第7節	洪水調節計画	18
1.	計画基準雨量	—
2.	計画洪水量及び調節量	—
3.	貯水池	—
4.	洪水調節検討	—
5.	管理計画	—
第8節	干拓計画	18
第9節	農用地整備計画	18
1.	区画整理	—
2.	暗渠排水	—
3.	客土	—
4.	農地保全	—
第10節	老朽ため池改修計画	18
1.	洪水吐改修計画	—
2.	堤体補強計画	—
3.	取水施設改修計画	—
第5章	主要工事計画	19
第1節	用水施設	19
1.	貯水池	—
2.	頭首工	—
3.	揚水機	—
4.	用水路	—
5.	その他かんがい施設	—
第2節	排水施設	19
1.	排水水門	—
2.	排水機	—
3.	排水路	—
4.	その他排水施設	—

次

第3節	道路及び索道	19
1.	道路	—
2.	索道	—
第4節	農用地造成	19
1.	農用地造成	—
2.	土壌改良	—
第5節	洪水調節施設	19
1.	貯水池	—
2.	頭首工及び導水施設	—
第6節	干拓施設	19
1.	堤防	—
2.	潮止め	—
3.	付属施設	—
4.	埋立	—
第7節	農用地整備施設	19
1.	区画整理	—
2.	暗渠排水	—
3.	客土	—
4.	除礫	—
5.	農地保全	—
第8節	老朽ため池改修施設	19
1.	貯水池	—
2.	堤体補強施設	—
第6章	附帯工事計画	20
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	20
第8章	環境と調和への配慮	21
第1節	配慮の対象	21
1.	植物	21
2.	動物	21
3.	その他(景観・文化財等)	21

目

次

第2節	配慮の考え方	21
1.	施工上の配慮	21
2.	施工計画上の配慮	21
第9章	換地計画の概要	22
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	—
第2節	換地区の設定	—
1.	換地区の名称、所在、面積	—
2.	換地区を設定する理由	—
第3節	換地計画樹立の基本方針	—
1.	従前の土地の面積の基準	—
2.	用途別予定地積	—
3.	農用地集団化の方針	—
4.	非農用地の換地方法	—
第4節	土地の評価及び精算の方法	—
1.	評価の方法	—
2.	精算の方法	—
第5節	換地計画樹立の年度計画	—
第6節	換地処分 of 時期に関する特則	—
第10章	事業費の総額及び内訳	23
第11章	効 用	24
第12章	関連する事業	25
第13章	現況・計画図面	25
1.	現形図	別途
2.	計画平面図及び主要構造図	別途

第1章 目 的

本地区の水田は、大半が急峻な土地を開墾した石積みの棚田であり築造からかなりの年月が経過し石積天端部分の流水などにより一部老朽化や崩壊等が発生し、水管理や石積み復旧に多大な労力を要している。

本事業により石積み保護の整備を行い、石積みの崩壊を未然に防止することで、村の貴重な歴史財産でもある棚田を保全し、星野村特有である農山村景観を維持するとともに、地域農業を支える農家の営農労力節減を図ることを目指す。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事業名	地 域
県営中山間地域総合整備事業 (農用地保全)	福岡県八女市星野村

第2節 地積

(平成28年 1月現在) (第2表)

事業名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
県営中山間地域総合整備事業 (農用地保全)	八女市 星野村	3.2	-	-	-	-	3.2	
合 計		3.2	-	-	-	-	3.2	

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表－1)

観測所名	羽犬塚観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	大正4年～昭和45年	6月～10月	11月～5月		
平 均 気 温 (℃)		19.3	10.8	15.9	
降 水 量	平 均 (mm)	1,041.0	899.0	1,940.0	
	基 準 年 (mm)	813.6	910.4	1,724.0	基準年・・・昭和35年(1960年)
降水日数	平 均 (日)	53	93	146	
	基 準 年 (日)	67	105	172	基準年・・・昭和39年(1964年)
根 雪 期 間		該当なし			
無 霜 期 間		該当なし			
最 多 風 向		南西	最 大 風 速 (風向)	25.7 m/s (南 西)	最多風向発生時期 最大風速発生年月日 昭和45年8月

2. 特殊気象

(第3表－2)

観 測 所 名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
羽犬塚観測所	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	
観 測 期 間																
大正4年～昭和45年																
最大日雨量 (mm)	349.0	S28.6.25	1/100	270.0	S10.6.28	1/40	252.0	S21.6.20	1/30	240.0	S30.4.15	1/20	233.0	S24.8.16	1/10	
最大時間雨量 (mm)	84.3	S28.6.26	-	59.0	S31.8.27	-	50.0	S42.7.9	-	42.0	S41.6.30	-	40.0	S36.7.5	-	
最大4時間雨量 (mm)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
最大連続雨量 (mm)	815.0	S10.6.26 ～7.5	1/100	635.0	S37.6.30 ～7.8	1/50	584.0	S3.6.23 ～6.29	1/18	575.0	S28.6.24 ～6.29	1/16	527.0	S10.6.30 ～7.10	1/10	
最大連続干天日数 (日)	59	S42.8.15 ～10.12	1/100	42	S44.8.2 ～9.12	1/30	41	T14.7.20 ～8.29	1/17	40	S27.7.10 ～8.18	1/17	40	S8.8.27 ～10.5	1/17	

3. 海 象

該当なし

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

[illegible]

(第4表－1－2)

項目 土壤統(区)名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表								面積 (ha)		備 考		
	土 壤 断 面							堆 積 様 式	母 材	事 業 名			
	色	腐 植 層	礫 層	酸化沈殿物	土 性		泥 炭 層 黒 泥 層 及びグライ層			農用地保全		計	
					表土	下層土							
					一層	二層							三層
多々良統	Y (灰) Y R (灰褐)	なし	なし	あり	粘質	粘質	—	—	水積 (河成堆積)	—	3.20	3.20	
計											3.20	3.20	

2. 土地分類

該当なし

3. 土地利用の状況

(平成27年3月現在)

(第4表-3)

[illegible]

4土地所有の状況

(平成 年 月現在)

(第4表－4)

事業名	所有別 区分	個人有				計	備 考
県営中山間地域総合整備事業 農用地保全	面 積 (ha)	3.2				3.2	
	受益者数(人)	13				13	
	筆 数 (筆)	23				23	
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)						
合 計	面 積 (ha)	3.2				3.2	
	受益者数(人)	13				13	
	筆 数 (筆)	23				23	
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)						

第3節 水利状況

県道52号及び57号線を併走するかたちで、熊渡山を源とする一級河川星野川（矢部川の支流）が、星野村の東から西に貫通しており、大半の農業用水は、星野川及びその支流から取水している。

第4節 道路概況

本地区の幹線道路網は、主要地方道八女香春線、浮羽石川内線、一般県道上横山星野線の県道3路線と主要な市道2路線により幹線道路網が形成されている。

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表－1)

項目 市町村名	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス 熱供給 水道業 (人)	運 輸 通信業 (人)	卸 売 小売業 飲食店 (人)	金 融 保険業 (人)	不 動 産 業 (人)	サービ ス 業 (人)	公 務 (人)	その他 (人)	備 考
八女市	30,782	5,239	176	5	3	2,681	3,982	60	1,508	4,004	331	232	10,555	930	1,076	2020年 国勢調査
計	30,782	5,239	176	5	3	2,681	3,982	60	1,508	4,004	331	232	10,555	930	1,076	
比率(%)	100.0	17.0	0.6	0.0	0.0	8.7	12.9	0.2	4.9	13.0	1.1	0.8	34.3	3.0	3.5	

(第7表-1)

[illegible]

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名			八女市						計	平均	作付率 (%)	備 考
総耕地面積 (ha)			6, 340						6, 340			
総本地面積 (ha)			6, 120						6, 120			
区分 作 物 名			作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)		
田	表作	水 稻	1, 120	460					1, 120	460		第70次 九州農林水産 統計年報
		豆 類 (大豆)	76	159					76	159		
									0	0		
	裏作	小麦	268	496					268	496		
		二条大麦	54	422					54	422		
									0	0		
									0	0		
	小 計		1, 518						1, 518			
普通畑	通年							0	0			
								0	0			
								0	0			
	春夏作							0	0			
								0	0			
	秋冬作							0	0			
								0	0			
小 計		0						0				
樹園地								0	0			
								0	0			
								0	0			
	小 計		0						0			
計			1, 518						1, 518			
市町村別 延べ作付率 (%)			25						25			

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地 域 指定等	備 考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A		
変化の状況 （C年を100とする指数）	総農家数	86	65	耕地	89	69	水稻	92	80	乳用牛	63	50	田植機	76	—	農業振興地域有 野菜指定産地有 ※「—」は 2020年センサスに記載なし	A:令和2年 (2020年 農林業センサス) B:平成27年 (2015年 農林業センサス) C:平成22年 (2010年 農林業センサス)
	専業農家数	95	—	田	88	64	麦類	87	76	肉用牛	100	91	トラクター	81	—		
	第一種兼業農家数	76	—	畑	182	143	豆類	142	122	採卵鶏	83	50	コンバイン	79	—		
	第二種兼業農家数	75	—	樹園地	78	64											
	農業従事者数	108	—														
変化の理由	他産業への転業及び後継者不足による減少。			農家数の減少及び、農地の転用等により耕地減少。			水稻の減少と豆類(大豆)の増加は、水田畑利用の定着による。			畜産状況の悪化による離農者の増加。			農家数の減少に伴う所有台数減				専業別農家数は販売農家(2020年センサスには掲載なし)、その他は農業経営体を対象とした。

※星野村では比較ができない項目が多いため、八女市の値を使用

第6節 地域環境の概況

1. 動物等生態系の概要 （星野村田園環境整備マスタープラン）

植物： オキナグサ、オグラコウホネ、シコクハタザオ、ヒロハコンロンカ、フトヒルムシロ、ヤマトミクリ、リンドウ、バイケイソウ、マメヅタラン、エビネ、タシロラン、湿性植物群落、ヤマザクラ群落

鳥類： ヤマドリ

両生類： トノサマガエル、カスミサンショウウオ、ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル

淡水魚類： アカザ、ニッポンバラタナゴ、カゼトゲタナゴ、ドジョウ、カジカ

昆虫類： キバネセセリ、スギタニルリシジミ、キマダラモドキ、キンスジコガネ、ミヤマセセリ、ヒメキマダラセセリ、ミヤマチャバネセセリ、エゾスジグロシロチョウ、コツバメ、オオムラサキ

2. その他の地域環境への概要

①自然環境

星野村の自然環境について、人の営みに関係のない純粋な自然はほとんど見られず、農山村の中で人々が農地や山林を利用し、自然の中に積極的に作り出した‘山里の自然’が主なものとなっています。

‘山里の自然’は、星野村に営々と築かれてきたかけがえのない自然であり、次の世代に継承し残しておくべきものであるといえます。

しかしながら、過疎化・少子高齢化の影響による農林業従事者の不足や経済的な理由などから間伐期を迎えても手入れされない山林、耕作放棄による原野化している農地なども増加しており、抜本的な対策が求められている状況にあります。

また、ごみの不法投棄や生活排水等による水質の悪化なども懸念されており、社会的モラルの醸成と共に、集落排水施設整備事業や合併浄化槽設置事業などによる環境の保全が求められます。

②社会環境

長期化する不況の中で、農林産物の価格低迷は、依然として厳しい状況にあり、農林業の後継者不足や高齢化と合わせ、深刻な現況にあります。

農林業以外の産業についても、主力産業が第3次産業に移行している中、村内に安定した就労の場は少なく、サービス業などの活性化も滞っている状況にあるといえます。

今後は、これまで以上に農村への定住の促進と、農村と都市との交流連携を図る必要があります。

③生産環境

道路整備や上水道等の生活用水の確保、下水道整備等、生活環境に直結した分野においては、いずれも整備率が低く、快適な生活環境が確保されているとはいえない状況です。

都市部と遜色のない快適な居住環境の創造は、地形的にも財政的にも制約を生じますが、豊かな自然に恵まれた、農村の特色を生かした快適環境の形成を図ることが、定住促進のためにも必要とされます。

第4章

一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本地区の水田は、大半が急峻な土地を開墾した棚田である。これらの水田は、石積みで形成されており維持管理等に労力を要している。また、石積天端部分の流水などにより一部老朽化や崩壊等が見受けられる。大雨等による石積みの崩壊を防止することで、本地区の貴重な歴史的財産でもある「石積みの棚田」を保全し、本地区特有の農山村景観を維持し、農用地を保全する。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分 事業目的	県営中山間地域総合整備事業（農用地保全）										計	備考
	田	普通畑	牧草畑	果樹園	小計	田	普通畑	牧草畑	果樹園	小計		
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
石積保護工	3.20	－	－	－	3.20						3.20	
計	3.20	－	－	－	3.20						3.20	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

本地区の水田は、大半が急峻な土地を開墾した棚田である。これらの水田は、石積みで形成されており維持管理等に労力を要している。また、石積み天端部分の溢水等により一部漏水や崩壊が見受けられる。
このため、石積み上部の保護工を施すことによって大雨等による石積みの崩壊を防止する。このことにより本地区の貴重な歴史的財産でもある「石積みの棚田」を保全し、本地区特有の農山村景観を維持する。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	水田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶園	その他	小計	原野	山林	その他	計	備 考
	区 分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
県営中山間地総合整備事業 (農用地保全)	現 況	3.20	-	-	-	-	-	3.20	-	-	-	3.20	
	計 画	3.20	-	-	-	-	-	3.20	-	-	-	3.20	
計	現 況	3.20	-	-	-	-	-	3.20	-	-	-	3.20	
	計 画	3.20	-	-	-	-	-	3.20	-	-	-	3.20	

3作付方式

(第9表-2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	1年目												2年目												3年目												備考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
県営中山間地域総合整備事業 (農用地保全施設整備)	現況		輪換耕地	水稲												水稲												水稲												
				花木																																				
			畑																																					
	計画	輪換耕地	水稲												水稲												水稲													
			花木																																					
		畑																																						

4. 生産計画

(第9表-3)

[illegible]

5. 労働改善計画
該当なし

6. 級地別土地利用区分
該当なし

7. 土地配分計画
該当なし

第3節 用水計画
該当なし

第4節 排水計画
該当なし

第5節 道路計画
該当なし

第6節 農用地造成計画
該当なし

第7節 洪水調節計画
該当なし

第8節 干拓計画
該当なし

第9節 農用地整備計画

整備箇所の選定は、各団地毎を細かく調査し、特に漏水箇所のはげしい所や石積みが崩壊している所、老朽化が著しい所等を中心としている。また、村の財産である「広内・上原地区の棚田」や受益者の営農意欲による範囲も選定の対象としている。

石積保護工を実施する最低高さについては、平成14年3月、国土交通省『都市公園における遊具の安全確保に関する指針』によると、「落下高さの制限」の最少高さは、 $800 < H \leq 1000$ となっているため最低石積高さを $H = 80\text{cm}$ 以上とした。

第10節 老朽ため池改修計画
該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

該当なし

第2節 排水施設

該当なし

第3節 道路及び策道

該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調節施設

該当なし

第6節 干拓施設

該当なし

第7節 農用地整備施設

地区名	種類	受益面積(ha)	事業延長(m)			備 考
			合計	Aタイプ(m)	Bタイプ(m)	
合瀬	石積保護工	1.07	1001	430	571	
六丁弓	石積保護工	1.20	859	38	821	
黒谷	石積保護工	0.10	78	14	64	
本星野	石積保護工	0.88	588	307	281	
千々谷	石積保護工	0.04	42	42	0	
合計		3.29	2,568m	831m	1,737m	

第8節 老朽ため池改修施設

該当なし

第 6 章 附帯工事計画

該当なし

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

着 手 平成 2 8 年度

完 了 令和 1 0 年度

第8章 環境との調和への配慮

第1節 配慮の対象

1. 植物 絶滅危惧ⅠB類（オキナグサ、オグラコウホネ、シコクハタザオ、ヒロハコンロンカ、フトヒルムシロ、ヤマトミクリ）
Ⅱ類（リンドウ、バイケイソウ、マメヅタラン、エビネ、タシロラン）ⅡB類（湿性植物群落）ⅢA類（ヤマザクラ群落）

2. 動物

鳥 類：絶滅危惧Ⅱ類（ヤマドリ）

両生類：絶滅危惧ⅠB類（トノサマガエル）Ⅱ類（カスミサンショウウオ、ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル）

淡水魚類：絶滅危惧ⅠB類（アカザ）Ⅱ類（ニッポンバラタナゴ、カゼトゲタナゴ、ドジョウ、カジカ）

昆虫類：絶滅危惧Ⅰ類（キバネセセリ、スギタニルリシジミ、キマダラモドキ、キンスジコガネ）

Ⅱ類（ミヤマセセリ、ヒメキマダラセセリ、ミヤマチャバネセセリ、エゾスジグロシロチョウ、コツバメ、オオムラサキ、ウラギンヒョウモン、ウラギンスジヒョウモン、クモガタヒョウモン、オオトラフクコガネ、オオマドボタル、オオオバホバル、オオクシヒゲビロウドムシ）

3. その他（景観・文化財等）

自然景観：池の山、室山、合瀬耳納公園、石割岳、石積の棚田、カラ迫岳

文化財：室山の大杉（県指定文化財）、天領日田・旧久留米藩国境石（県指定文化財）、大円寺、懷良親王御墓所、鷹取城跡 等

第2節 配慮の考え方

1. 施工上の配慮

- ・ 工事にあたっては、低騒音型の工事機械を使用する等、騒音を抑制する対策を行う。
- ・ 工事で使用する資材については、再生クラッシュランなどの再生材を使用する。
- ・ 現況石積について、用排水管理への影響が無く、且つ状況が良好であれば、撤去せずにそのまま流用する。

2. 施工計画上の配慮

- ・ 現況の水路では石積が多く見られるため、基本的には石積による改修を標準工法として採用し、周辺風景との調和を図る。

第 9 章 換地計画の概要

該当なし

第 1 0 章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

区分		事業名	農用地保全 (千円)		備 考
事業費	主 要 工 事	純工事費	43,666		
		測量試験費	3,317		
		用地費	-		
		工事雑費	758		
	附 帯 工 事	-			
地 方 事 務 費		2,364			
計		50,105			
関連事業 参考)	国 営	-			
	水資源開発公団営	-			
	都 道 府 県 営	-			
	団 体 営	-			
	非 補 助	-			
	そ の 他	-			
	計	-			

第 1 1 章 効 用

(第27表)

事 業 名	項 目	年増加見込効果額 (千円)	年増加見込所得額 (千円)	備 考
	区 分			
県営中山間地域総合整備事業 農用地保全	営農経費節減効果	38		
	維持管理費節減効果	18	18	
	災害防止効果(一般)	13,487		
	計	13,543	18	

<参 考>
 総便益(現在価値化) : 288,300 千円
 総費用総便益比 : 5.39

第 1 2 章 関連する事業

該当なし

第 1 3 章 現況・計画図面

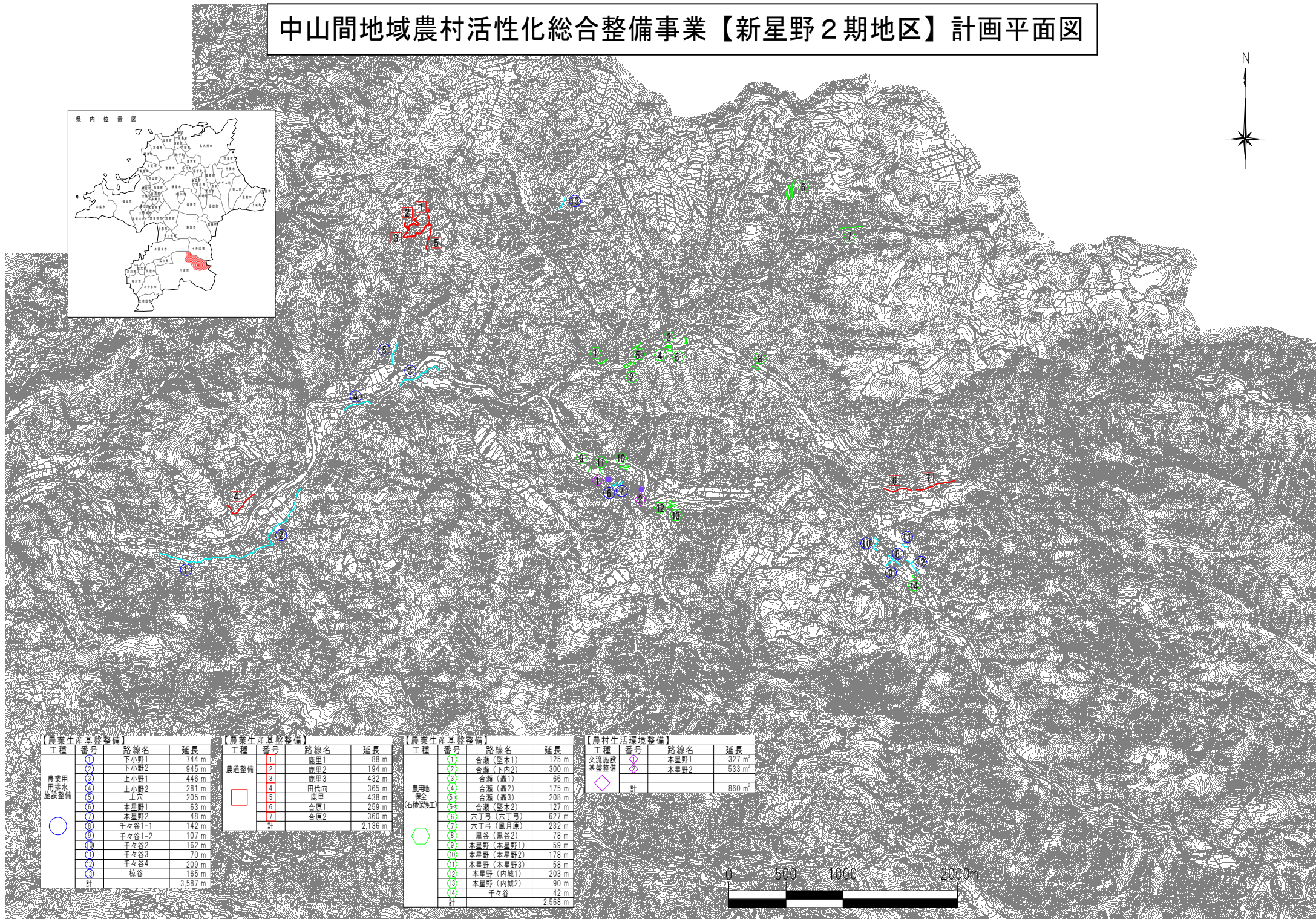
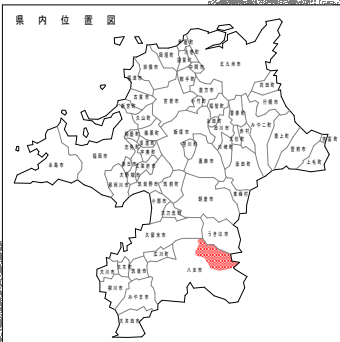
1. 現況図

別紙図面のとおり

2. 計画平面図及び主要構造図

別紙図面のとおり

中山間地域農村活性化総合整備事業【新星野2期地区】計画平面図



【農業生産基盤整備】			
工種	番号	路線名	延長
農業用 用排水 施設整備	①	下小野1	444 m
	②	下小野2	945 m
	③	上小野1	446 m
	④	上小野2	281 m
	⑤	上小野	205 m
	⑥	本星野1	63 m
	⑦	本星野2	48 m
	⑧	千々谷1-1	142 m
	⑨	千々谷1-2	107 m
	⑩	千々谷2	162 m
	⑪	千々谷3	70 m
	⑫	千々谷4	209 m
	⑬	橋谷	165 m
計			3,587 m

【農業生産基盤整備】			
工種	番号	路線名	延長
農道整備	①	鹿里1	88 m
	②	鹿里2	194 m
	③	鹿里3	432 m
	④	田代向	365 m
	⑤	鹿里	438 m
	⑥	合原1	259 m
	⑦	合原2	360 m
計			2,136 m

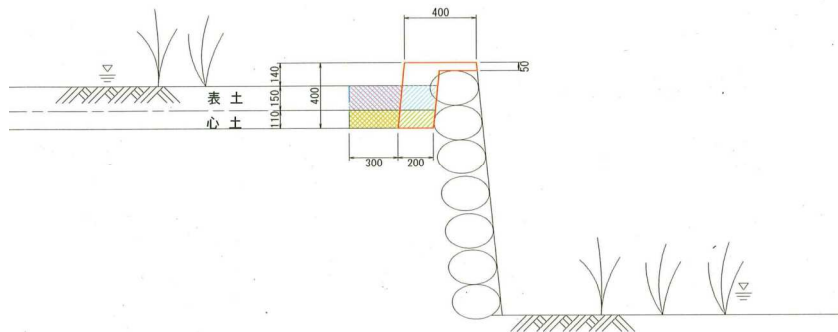
【農業生産基盤整備】			
工種	番号	路線名	延長
農耕地 保全 (石積保護工)	①	合瀬(堅木1)	125 m
	②	合瀬(下内2)	300 m
	③	合瀬(轟1)	66 m
	④	合瀬(轟2)	175 m
	⑤	合瀬(轟3)	208 m
	⑥	合瀬(堅木2)	127 m
	⑦	六丁馬(六丁馬)	627 m
	⑧	六丁馬(風月原)	232 m
	⑨	鹿谷(鹿谷2)	78 m
	⑩	本星野(本星野1)	59 m
	⑪	本星野(本星野2)	178 m
	⑫	本星野(本星野3)	58 m
	⑬	本星野(内城1)	203 m
	⑭	本星野(内城2)	90 m
計			2,568 m

【農村生活環境整備】			
工種	番号	路線名	延長
交通施設 基盤整備	①	本星野1	327 m
	②	本星野2	533 m
計			860 m

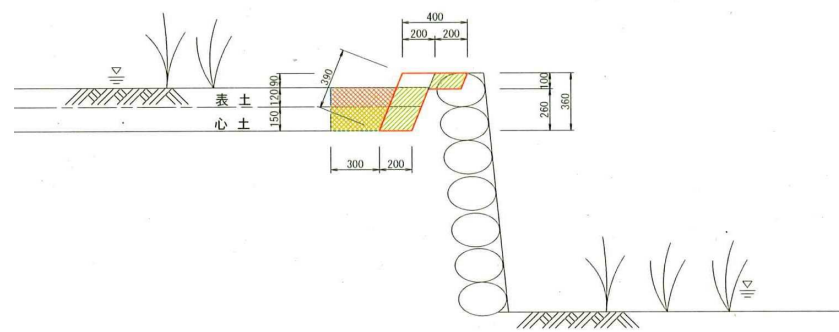


主要構造図

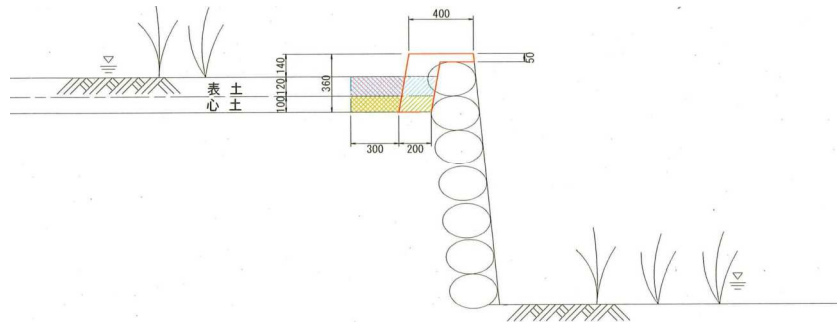
【合瀬 下内2・轟1.2.3】



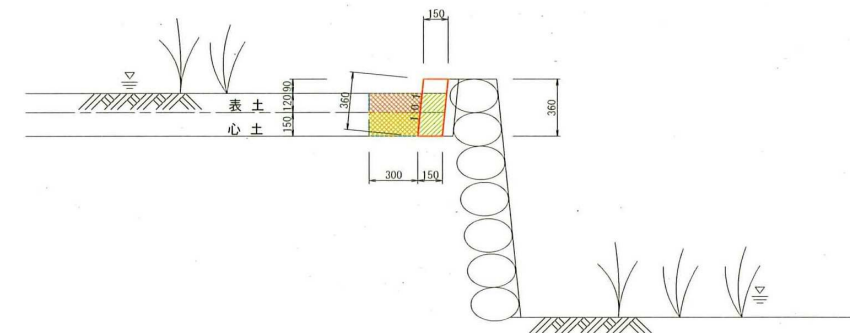
【本星野 本星野1】・【千々谷】



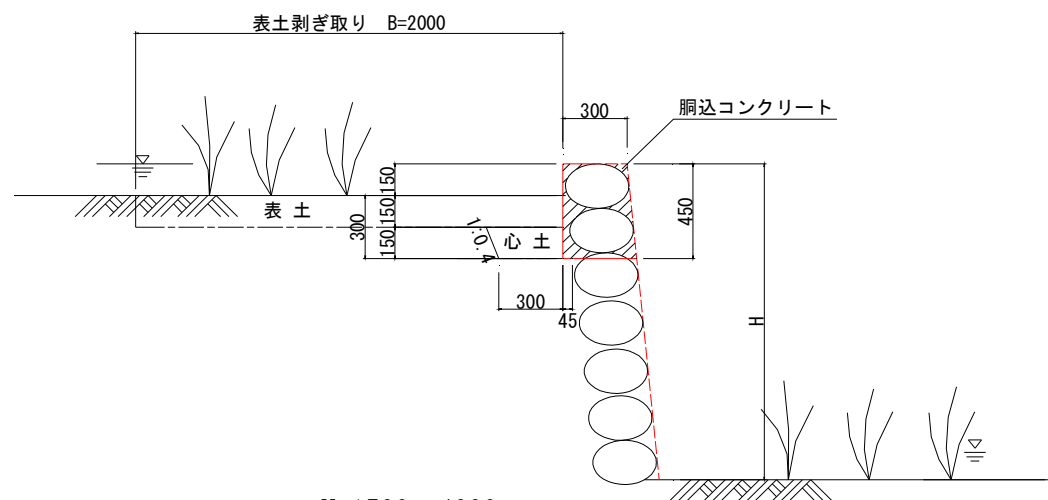
【合瀬 堅木2】



【本星野 本星野1】



主要構造図

$$H=0 \sim 1500$$


H=1500~4000

